



新規口座開設限定

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!

今すぐ口座開設/詳細はこちら

アルトコインとは？ おすすめ10選をわかりやすく解説

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/crypto-basics/altcoin>

現在、**暗号資産（仮想通貨）**市場には2000以上のアルトコインが存在しています。それらは何なのでしょう
うか？ そもそも重要なのは、それらが**ビットコイン（BTC）**とどう違うのですか？

では、そもそもアルトコインとは何なのでしょう？ それとも、オリジナルである唯一無二のビットコ
インの安いレプリカに過ぎないのでしょうか？



アルトコインとは

アルトコインとは、ビットコイン以外の暗号資産のことを指します。ビットコインと並んで市場に登場した最初のアルトコインは、2012年に誕生したことを知ると驚くかもしれません。Namecoin（NMC）

は、ウェブ上のドメイン名登録を分散化することを目的としており、代替性トークンとしても使用されています。

現在、暗号資産市場には2000を超えるアルトコインが流通しています。そんなにたくさん必要なのかと思われるかもしれませんが、実は、自由な市場競争が行われているだけなのです。誰もが自由に自分の暗号資産を立ち上げることができます。そして、そうする誰もが、自分には何かユニークなものがあると考えたり、少なくともそのように装ったりしています。しかし実際には、そのほとんどが暗号資産か、特定のアプリやプラットフォーム向けのユーティリティやリワードトークンです。数は多くても、大量導入に至るには、強いものだけが生き残るのです。

競争の激化は、ビットコインを傷つけるものではありませんが。ほとんどの場合、それは暗号資産業界の前進をさせるだけです。また、すべてのアルトコインがビットコインを直接的にパクっているわけではなく、ユニークな価値提案を持っていることが多いのです。

関連: [アルトコイン相場低迷、主要アルトは6%~9%急落](#)

関連: [【アルトコイン相場】アルトコイン暴落、WAVESは13%下落](#)



[Google Playで手に入れよう](#)

[App Storeからダウンロード](#)

[日本ユーザー様限定特典 \(10,055USDTギフトパック\) <<<<](#)

人気のアルトコイン10選

この文章では、人気のアルトコイン10選を簡単に紹介していきます。この記事で取り上げるアルトコインは、イーサリアム (ETH)、ライトコイン (LTC)、[リップル \(XRP\)](#)、カルダノ (ADA)、テザー (USDT)、[イオス \(EOS\)](#)、アイオタ (IOTA)、ビットコインキャッシュ (BCH)、ترون (TRX)、モネロ (XMR) です。

イーサリアム (ETH)

イーサリアム (ETH) は、より進化した第2世代の分散型仮想通貨です。世界のコンピューターとも呼ばれるイーサリアムプラットフォームを動かしています。スマートコントラクトや分散型アプリケーション (dapps) の実行に使用され、イニシャル・コイン・オファリング (ICO) の資金調達に最も人気のある仮想通貨でもあります。他の暗号資産と同様に、支払い手段としても広く受け入れられています。

具体的には下記のアクセスをご覧ください。

[イーサリアム\(ETH\)とは? その特徴や基本事項をわかりやすく解説](#)

[イーサリアム\(ETH\)の今後・将来性をわかりやすく解説](#)

[イーサリアム先物やオプションでNFTをヘッジする方法](#)

▪ ライトコイン (LTC)

ライトコイン (LTC) は、ビットコインと同様、分散型デジタル決済を唯一の目的とする仮想通貨です。2012年にビットコインの欠点に対する答えとして作られ、より速い取引、より低い手数料、より多くの通貨供給を提供しています。ライトコイン (LTC) の創設者で元グーグルのエンジニアであるチャーリー・リー氏は、「ビットコインはデジタルゴールドだ。ライトコインはデジタルシルバーだ」と述べた。

▪ リップル (XRP)

リップル (XRP) も決済用のデジタルトークンです。それ以外にも、国境を越えたリアルタイムのフィアット決済のための流動性供給源として、リップルラボによって利用されています。このため、「バンクスターズコイン」とも呼ばれることがあります。このアルトコイン自体は、最も高速でスケーラブルなデジタル資産となるように設計されています。

▪ カルダノ (ADA)

カルダノ (ADA) はカルダノプラットフォームのネイティブトークンです。スマートコントラクト、分散型アプリケーション (dapps)、サイドチェーン、メタデータ、分散型マルチパーティ計算を可能にする第3世代の暗号通貨として設計されています。まだ開発中ではありますが、このプロジェクトは、妥協のないセキュリティを備え、より高性能で、高速、スケーラブル、かつエネルギー効率の高い新しいビットコインとなることを目標としています。

▪

テザー(USDT)

テザー(USDT)は、この分野で最も人気のある安定したデジタル資産です。米ドルと1対1の比率で結ばれたステーブルコインです。1つのUSDTは常に1ドルの価値があり、いつでもフィアットに交換することができます。基本的に、[ブロックチェーン](#)技術の利点と不換紙幣の安定性を兼ね備えているため、非常に不安定な暗号資産市場のボラティリティを低減することができます。トレーダーは、不確実な時期に資金をヘッジするために、しばしばこのアルトコインを使用します。また、ブロックチェーンを通じて世界のどこにでも送金できるため、支払い手段としても利用できます。ただし、ビットコインやイーサリアムと異なり、テザーは高度に中央集権的であり、その取引はTether Company Limitedによっていつでも停止させることが可能です。

具体的には、下記のアクセスをご覧ください。

[ステーブルコインとは？特徴から種類までわかりやすく解説](#)

■ イオス (EOS)

イオス (EOS) も第2世代のブロックチェーンであり、Dappsや**DAO (分散型組織)**を動かすために設計された半中央集権的な仮想通貨です。世界最高のスマートコントラクトプラットフォームとして、イーサリアムと競い合っています。イオス (EOS) はイーサリアムより高速でスケーラブルですが、その分、分散性を犠牲にしています。このため、イオスはDPoS (delegated proof-of-stake consensus) によって管理され、プラットフォームの規則を定義するためにイオスを使用しています。また、イオスはイーサリアムよりも歴史が浅く、まだ広く受け入れられていません。

■ アイオタ (IOTA)

アイオタ (IOTA) は、未来のモノのインターネット (IoT) のための斬新なプロジェクトです。IoTデバイス間のフィーレスで高速なマシンツーマシン取引を可能にします。その機能はまだ少し先ですが、アイオタは暗号資産として通常の支払いにも使用できるため、合法的な仮想通貨と言えます。

■ ビットコインキャッシュ (BCH)

ビットコインキャッシュ (BCH) は、ライトコインと同様に、2017年夏の悪名高いハードワークから生まれたビットコインのフォークです。ビットコインキャッシュは創設者に「本物のビットコイン」とも呼ばれています。最終的にBCHは、ビットコインの遅い取引時間、高いエネルギー消費、手数料の問題に取り組んでいますが、今のところコミュニティの認知を得ることはできていません。ビットコインと同様に、決済用の仮想通貨としての意味合いが強いです。

■

具体的には、下記のアクセスをご覧ください。

▪ トロン (TRX)

トロン (TRX) は、デジタルエンターテインメントやコンテンツ生成システムのための半中央集権的な仮想通貨です。トロンプロトコルは、トロンエコシステムで分散型アプリケーションを作るためのスケラビリティ、高可用性、高スループットコンピューティング (HTC) サポートを提供しています。また、イーサリアムのスマートコントラクトと互換性があります。このネットワークの第一の目標は、ウェブ上での配信を分散化することです。トロン (TRX) は、ネットワーク上でコンテンツを共有し、ネットワークに貢献するコンテンツ制作者に報酬を与えるために使用されます。したがって、デジタル通貨とユーティリティ・トークンの両方に分類することができます。

▪ モネロ (XMR)

モネロ (XMR) は、追跡不可能な決済を行うために設計された、分散型のプライバシー重視の暗号資産です。2014年に発売されたため、市場では古い仮想通貨の1つです。すべてのモネロユーザーは、可視性と個人データまたはレベルを制御することができます。その上、それはビットコインよりずっと速く、よりスケラブルです。それにもかかわらず、モネロコインのプライバシー機能は、それがダークウェブと他の極悪非道な事件でその人気の高まりによって示されるように、常に良い方向に使用されていません。

上記の例に見られるように、人気のある暗号資産の多くは、そのアイデアとユースケースが異なります。中にはより専門的なニッチを持つものもありますが、ほとんどは特定の技術的側面を取引することで、ビットコインに対する優位性を獲得しようとするものです。上位10種類のアルトコインの下を見ると、ダッププラットフォームや決済通貨、ユーティリティやアセットバックトークンなど、さらに特殊なユースケースを持つものが見つかる可能性があります。

【関連記事】

[ビットコイン \(BTC\) とは？ その仕組みをわかりやすく解説](#)

[4ステップでビットコインの買い方をわかりやすい解説](#)

[ドージコイン \(DOGE\) とは？ ゼロから仮想通貨入門](#)

[DeFi \(分散型金融\) とは？ 分かりやすく解説](#)

[NFTとは？ その買い方から保管方法まで分かりやすく解説](#)

[メタバーズとは？ その概要をわかりやすく解説](#)

[ダイ \(DAI\) とは？ 概要からユースケースまで徹底解説](#)

[ダイ \(DAI\) の仕組みは？ 発行から価格維持までの仕組みを解説](#)

